

若年性認知症について

若年性認知症者の実態と支援体制

認知症が65歳未満で発症した場合は、「若年性認知症」と呼びます。厚生労働省の研究班(2009年)によると、全国の若年性認知症者数は約3万7800人で、人口10万人当たりで47.6人となっています。発症年齢は平均で51.3歳であり、約3割は50歳未満で発症しています。男性に多いのが特徴です。

原因疾患は、脳血管性認知症が最も多く(約40%)アルツハイマー病は約25%とされています。その他、頭部外傷後遺症やアルコール性認知症など多様であることも特徴です。

若年性認知症の多くは働き盛りの世代であり、本人だけでなく家族にも社会的な大きな影響があります。認知症になったために失職する人が多く、配偶者は介護負担とともに経済的負担も負うこととなります。また、子どもの教育・就職・結婚など、子どもの人生設計が大きく変わることもあります。

先日、当認知症疾患医療センターのスタッフ数名で若年性認知症の家族会へ参加させていただきました。受診や介護、社会的手続きなどに関する情報の入手が困難な状況や通所できる施設の少なさなど、切実な状況を目の当たりにし、自分たちにできることが何かを考えていきたいと痛感しました。

活動報告

2019.4.24(水) 13:30 ~ 14:30



家族介護教室 「認知症の方への接し方」

4月24日 家族介護教室「認知症の方への接し方」を開催しました。竹中センター長によるミニ講座の後、介護福祉士による「おむつの当て方講座」を行いました。また、その後に行った茶話会は、家族介護者の日頃の思いや今後の不安など、センタースタッフと、またはご家族同士で語り合うとても貴重な時間となりました。

活動予定

令和元年6月26日(水)
西東京市事例検討会
7月26日(金)
第1回看護師認知症対応力
向上研修 I

☆今後の予定☆
・かかりつけ医認知症研修
・認知症初期集中支援部会
・第2回看護師認知症対応力向上研修 I

今後とも、ご協力の程、
よろしく願い申し上げます。

北多摩北部保健医療圏
薫風会山田病院
認知症疾患医療センター